8 さまざまな情報発信

大会に向けた気運醸成、市の取り組み紹介及びゆかりのアスリート応援のため、ホームページ・広報まちだ・Twitterを活用した情報発信を行いました。

ホームページ

ホームページではオリンピック・パラリンピック特設ページを作成し、ゆかりのアスリートの競技情報や試合結果についての紹介や、事前キャンプを実施したインドネシアパラバドミントン代表のキャンプ情報や試合結果について周知しました。「オリパラ通信＋」と題して広報まちだの「オリパラ通信」に掲載しきれなかった内容を紹介するページを作成し、市の取り組みをより深く知ってもらえるよう情報発信をしました。

市ホームページのトップページには大会公式マスコット、ミライトワを使用したバナーを設置し特設ページへの誘導と共に、気運醸成を行いました。

Twitter

2020年６月18日からTwitterの運用を開始し、大会開会までのカウントダウンや、ホストタウンの紹介、ゆかりのアスリート紹介、大会に関連する情報の発信などを平日はほぼ毎日行いました。イベントを実施した際などは周知や、当日の様子の発信も行いました。

大会期間中はゆかりのアスリートの試合情報や、試合結果についてのツイートを行いました。

大会公式アカウントなどが投稿する選手の写真や試合の映像が添付されているツイートを積極的にリツイートすることで、市で入手や投稿ができない写真や動画を届けることができました。

インドネシアに関連する投稿には、インドネシア語のハッシュタグを付けることでインドネシア人の目に留まるような工夫をしました。特にインドネシアパラバドミントン代表に関する投稿は関心が高く、インドネシア代表の画像を付けた投稿には多くのインドネシア人からのリツイートやリプライが来ました。

Twitterの利点である即時性を活かした取り組みとして、市内で行われたロードレースや、大迫傑選手が出場した男子マラソンの経過、インドネシア代表のパラバドミントンの試合情報・結果をリアルタイムで発信しました。

広報紙

広報まちだにおいて「オリパラ通信」と題して市内で行われたオリンピック・パラリンピックに関連した出来事を紹介するコーナーを設けました。

８月１日号　「オリンピック聖火が町田シバヒロにやってきた！」

８月15日号　「自転車ロードレースが町田市内を駆け抜けた！」

９月15日号　「インドネシアパラバドミントン代表チームが事前キャンプを実施」

また、７月１日号で自転車ロードレースに関して、10月１日号ではオリパラ全体の振り返りとして１面・２面を使用して特集記事を作成しました。